

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)

【公開番号】特開 2001-343470 (P2001-343470A)
 【公開日】平成 13 年 12 月 14 日 (2001.12.14)
 【出願番号】特願 2000-161401 (P2000-161401)
 【国際特許分類】

G 0 4 B 37/06 (2006.01)

G 0 4 B 3/04 (2006.01)

【F I】

G 0 4 B 37/06 Z

G 0 4 B 3/04 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 15 日 (2007.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】腕時計の巻真着脱構造及び着脱レバーの組立方法

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 外部操作を行なう巻真と、該巻真と係合するオシドリと、該オシドリに作用するオシドリレバーを有し、該オシドリレバーは、前記巻真着脱時に外力を加える力点と、該外力を支持する支点と、前記オシドリに作用する作用点とを有する腕時計の巻真着脱構造において、前記オシドリレバーの支点は、直接又は間接的に、外装ケースと当接する部分である事を特徴とする腕時計の巻真着脱構造。

【請求項 2】 腕時計はムーブメントを構成する回路支持板を有し、該回路支持板に形成されたレバー保持部が前記オシドリレバーの支点と係合すると共に、前記レバー保持部が前記外装ケースと当接することにより、前記オシドリレバーの作用点が前記オシドリに作用する事を特徴とする請求項 1 に記載の腕時計の巻真着脱構造。

【請求項 3】 前記回路支持板のレバー保持部は、ムーブメントの最上面まで上曲げされる部分と、上曲げ部に続いて下曲げされた下曲げ部分を有し、該下曲げ部により前記オシドリレバーは位置決めされ、前記オシドリレバーの支点を形成している事を特徴とする請求項 2 に記載の腕時計の巻真着脱構造。

【請求項 4】 前記オシドリレバーは、文字板外周付近の力点から前記オシドリに作用する作用点の間に断面的に斜面部を有し、該斜面部の一部と時計ケースとにわずかな隙間を持って配置され、前記オシドリレバー斜面部が支点となる事を特徴とする請求項 1 に記載の腕時計の巻真着脱構造。

【請求項 5】 ムーブメントを組み立てるムーブメント組立工程と、該ムーブメントを組み立てた後にオシドリレバーを前記ムーブメントに組込むオシドリレバー組立工程と、前記オシドリレバーが組み込まれた前記ムーブメントを外装ケースに組み込む外装組立工程とを有する事を特徴とする腕時計の着脱レバーの組立方法。

【請求項 6】 腕時計はムーブメントを構成する回路支持板を有し、該回路支持板に形成

されたレバー保持部が前記オシドリレバーの支点と係合すると共に、前記レバー保持部は可撓性を有して、レバー保持部を撓ませることにより前記オシドリレバーを前記ムーブメントに組み込み可能としたことを特徴とする請求項5に記載の腕時計の着脱レバーの組立方法。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項1に記載の構成は、外部操作を行なう巻真と、該巻真と係合するオシドリと、該オシドリに作用するオシドリレバーを有し、該オシドリレバーは、前記巻真着脱時に外力を加える力点と、該外力を支持する支点と、前記オシドリに作用する作用点とを有する腕時計の巻真着脱構造において、前記オシドリレバーの支点は、直接又は間接的に、外装ケースと当接する部分である事の特徴としている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、本発明の請求項2の構成は請求項1において、腕時計はムーブメントを構成する回路支持板を有し、該回路支持板に形成されたレバー保持部が前記オシドリレバーの支点と係合すると共に、前記レバー保持部が前記外装ケースと当接することにより、前記オシドリレバーの作用点が前記オシドリに作用する事の特徴としている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、本発明の請求項3の構成は請求項2において、前記回路支持板のレバー保持部は、ムーブメントの最上面まで上曲げされる部分と、上曲げ部に続いて下曲げされた下曲げ部分を有し、該下曲げ部により前記オシドリレバーは位置決めされ、前記オシドリレバーの支点を形成している事の特徴としている。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、本発明の請求項4の構成は請求項1において、前記オシドリレバーは、文字板外周付近の力点から前記オシドリに作用する作用点の間に断面的に斜面部を有し、該斜面部の一部と時計ケースとにわずかな隙間を持って配置され、前記オシドリレバー斜面部が支点となる事の特徴としている。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

さらに、本発明の請求項 5 の構成は、ムーブメントを組み立てるムーブメント組立工程と、該ムーブメントを組み立てた後にオシドリレバーを前記ムーブメントに組込むオシドリレバー組立工程と、前記オシドリレバーが組み込まれた前記ムーブメントを外装ケースに組み込む外装組立工程とを有する事を特徴とするものであり、更に本発明の請求項 6 の構成は、腕時計はムーブメントを構成する回路支持板を有し、該回路支持板に形成されたレバー保持部が前記オシドリレバーの支点と係合すると共に、前記レバー保持部は可撓性を有して、レバー保持部を撓ませることにより前記オシドリレバーを前記ムーブメントに組込み可能としたことを特徴としている。